

同時資料提供

大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ



担当：学芸課 松井 彰子
Tel: 06-6697-6222
E-mail: shom@omnh.jp



担当：広報課 池田 航大
Tel: 092-606-0607 (携帯: 080-3967-1476)
E-mail: ko-ikeda@fit.ac.jp

令和5年6月22日

長崎県の「絶滅種」スナヤツメ南方種を100年ぶりに再発見

大阪市立自然史博物館 松井彰子学芸員および福岡工業大学 乾隆帝教授を含めた研究チームにより、長崎県版レッドリストにおいて「絶滅種 (EX)」に選定されている淡水魚、スナヤツメ南方種 *Lethenteron* sp. S. が約100年ぶりに長崎県で発見されました。



長崎県で約100年ぶりに発見されたスナヤツメ南方種。

上は成体(全長約14.7cm)、下はアンモシーテス幼生(全長約11.9cm)。

(いずれも2022年11月2日に採集、大阪市立自然史博物館所蔵)

※画像は本件の広報においてのみ使用を許可致します。

生息地は、スナヤツメ類の生息に必要な良好な水質、植生帯を伴う砂泥底環境、人工護岸が一切ない自然区間が残っており、本種の生息環境として良好な様子が伺えました。その生息範囲は広くはないものの個体数も少なくはなく、生息状況は比較的健全であると考えられます。今回発見された個体群は、現時点で長崎県内唯一であると同時に、本種の分布の西限にあたり

ます。この個体群は、生物多様性保全上も生物地理学的にもきわめて重要かつ貴重なものであり、今後、生息河川の環境が改変され絶滅することがないように、スナヤツメが生息できる健全な自然環境の保全をはじめとした保全対策を早急に講じる必要があると考えられます。

日本に分布するスナヤツメ類には、北方種と南方種があり、これらは遺伝的に明確に区別できる別種です。このうちスナヤツメ南方種は、秋田県以南の本州、四国、九州および朝鮮半島南部に生息する純淡水性のヤツメウナギ類で、環境省版のレッドリストでは絶滅危惧 II 類（環境省、2020）に選定されています。

国内での分布西限にあたる長崎県においては、大正三年（1914 年）に報告された標本目録の中に載っているものの、以後の採集記録が一切ありませんでした。また、この標本目録に掲載された標本は、1945 年 8 月 9 日の長崎市への原子爆弾の投下により滅失し、標本は現存していません。

ところが、2015 年 8 月 13 日に長崎県西海市の河川において、スナヤツメ類の幼生が採集され、さらに 2022 年 11 月 2 日にも同じ河川で成体と幼生が採集されました。これらの標本を形態的・遺伝的に分析したところ、「スナヤツメ南方種」と同定され、長崎県におけるスナヤツメ南方種の約 100 年ぶりの記録となりました。これらの標本は、大阪市立自然史博物館に登録・収蔵されています。

今回の再発見に関する論文は、*Ichthy, Natural History of Fishes of Japan* 33 巻に掲載されました。下記ホームページで論文の記事を無料で閲覧することができます。

https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/INHFJ_2023_033_027.pdf

■本件に関する問い合わせ

○標本の収蔵・分析に関すること

松井 彰子（大阪市立自然史博物館）

TEL：06-6697-6222、FAX：06-6697-6225、E-mail：shom@omnh.jp

○標本の採集に関すること

乾 隆帝（福岡工業大学）

TEL：092-606-6328、FAX：092-606-6497、E-mail：inui@fit.ac.jp

○長崎県におけるスナヤツメ類の記録に関すること

深川 元太郎（(公社)長崎県食品衛生協会）

TEL：095-883-6830、FAX：095-883-6981、E-mail：fukagawa-gentaro@nsek.or.jp

○九州におけるスナヤツメ類の生息状況に関すること、スナヤツメ類についての全般的なこと

中島 淳（福岡県保健環境研究所）

TEL：092-921-9951、FAX：092-928-1203、E-mail：oikawamaru@gmail.com